



Promind

Progressive/Modern/International/Dynamic

第71期 第1四半期株主だより

2018年4月1日～2018年6月30日

TOA 株式会社



株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

2018年6月30日をもって当社第71期第1四半期(2018年4月1日～2018年6月30日)が終了いたしましたので、事業の状況についてご報告申し上げます。

株主の皆さまにおかれましても、益々のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2018年9月

代表取締役社長

竹内 一弘



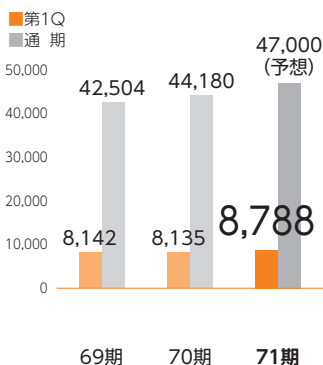
事業の状況

第1四半期における当社グループを取り巻く環境は、国内では企業収益や雇用環境の改善などを背景に景気は緩やかな回復基調が継続し、海外では米国や欧州経済も同様に回復が持続しておりますが、米国発の貿易摩擦の影響が懸念されるなど、依然として世界経済全体での先行きは不透明な情勢が続いています。

このような環境の下、企業価値である「Smiles for the Public 一人々が笑顔になれる社会をつくる」を実現するため、当期より新たに「中期経営基本計画」を開始いたしました。最終年度である2021年3月期に向けて、「お客さまとのつながり」をより一層強め、常に最適なソリューションの創造・提供が可能なビジネスを進めてまいります。また、各地域でのマーケティング機能を強化させ、それぞれの市場ニーズに応えた商品開発の加速と販路の拡充を継続して行ってまいります。

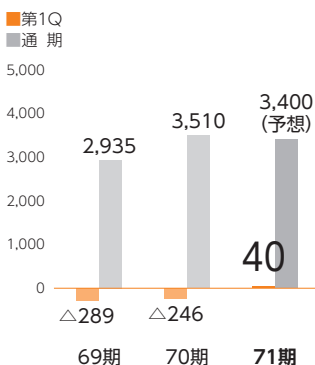
売上高

単位：百万円



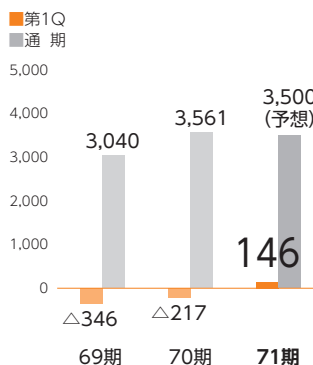
営業利益

単位：百万円



経常利益

単位：百万円



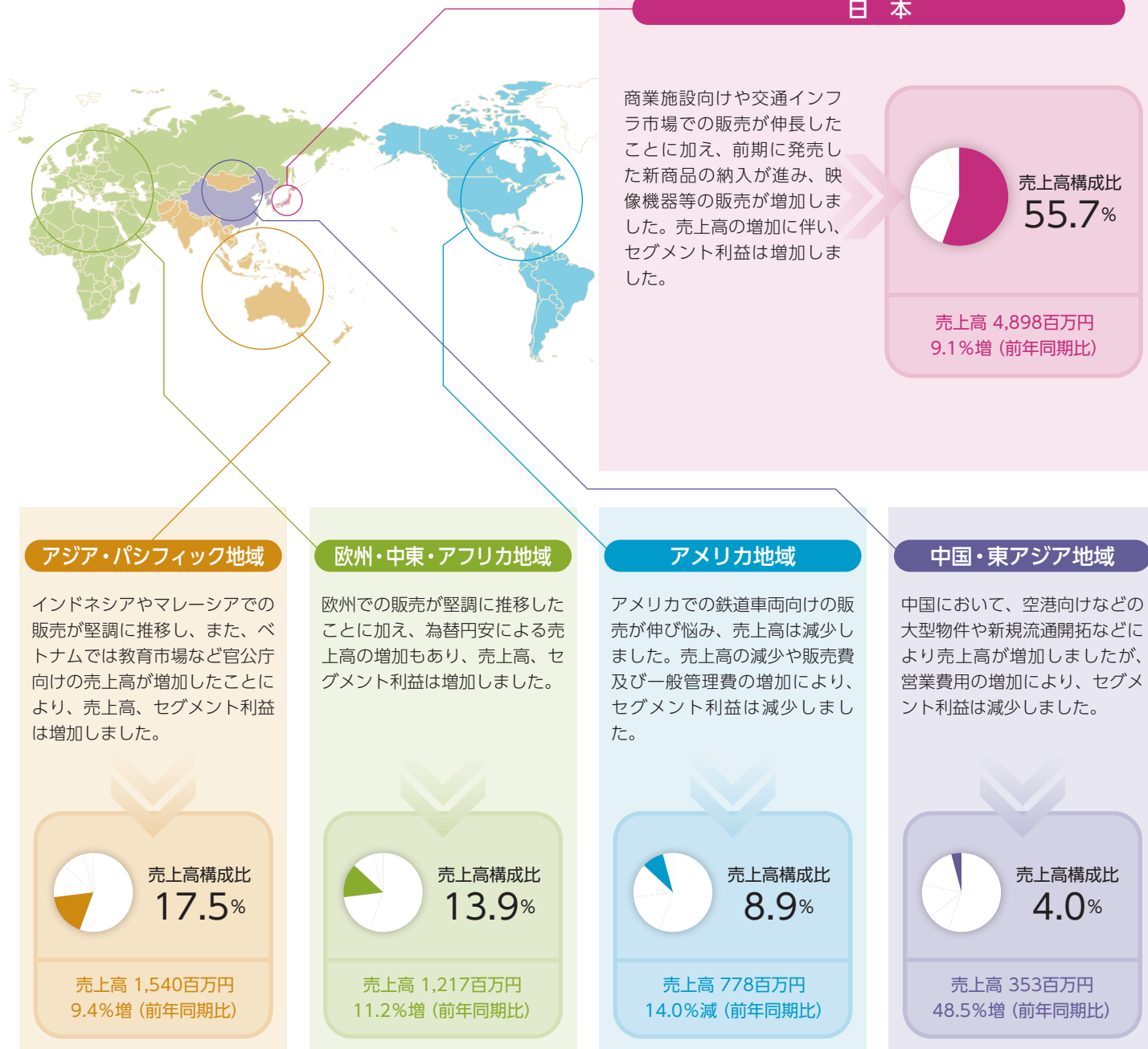
親会社株主に帰属する四半期純利益

単位：百万円



(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

地域別事業の状況



(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。



Close Up!

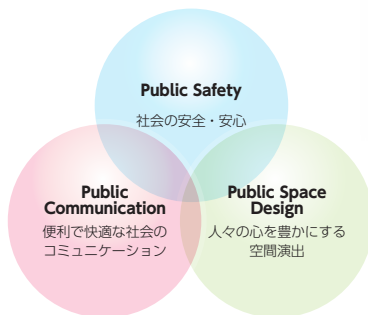
TOPインタビュー

人々の笑顔あふれるソリューションを提供するために

— 新たな事業領域に向けた狙いとは

新しい中期経営基本計画では、企業価値である「Smiles for the Public 一人々が笑顔になれる社会をつくる」をふまえて、**人々が集まる公共の場に「安心」「信頼」「感動」の価値を届けたいという思いで、事業領域を「Public Safety」「Public Communication」「Public Space Design」の3つに改めました。**

メーカー目線のものづくりから発想を変え、人々が実際に笑顔になっているシーンを思い浮かべて商品開発をしていこう、お客さまにご提案していこう、という思いを込めています。



代表取締役社長
竹内 一弘

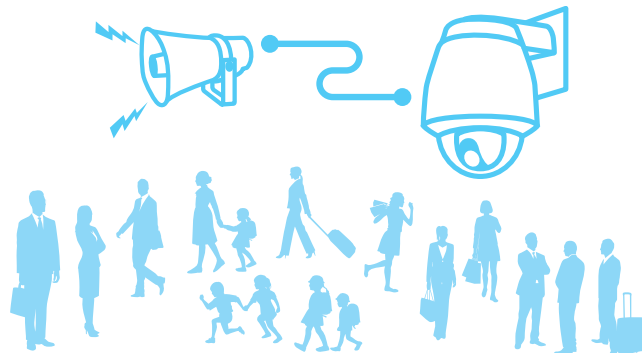
— コア・コンピタンスとしての「音の報^しせる力」について

多くの人に対し、一斉に情報を伝えることができる「音」そのものが持つ特性をふまえ、当社は、創業以来、拡声器、拡声放送設備というかたちで、社会に必要な音をお届けしてきました。これからも、当社のコア・コンピタンスである「音の報^しせる力」を時代の変化に合わせ、環境に適應するように磨き続けていかなければなりません。

その中で、「音の役割は何か」を突き詰めて考えることが**商品開発のヒントとなります**。例えば、機械の異常などを耳で聞き分ける熟練者（匠）がいます。その微妙な音の違いを判別できる技術を開発すれば、匠の技をより多くの人々にご提供することができます。普段からアンテナを張るだけでなく、お客さまの現場に出向き、当社ならではの視点で物事を見ることで本当の課題が浮かび上がり、新たな提案ができると思います。

また、カメラなどの映像機器の分野においても、「遠隔見守り

サービス」をはじめ、AI 搭載カメラが転倒者を自動検知してアラーム音で報^しせる仕組みなど、**映像の技術**を「音の報^しせる力」と融合させることで当社ならではの価値をご提供できる場面はたくさんあると考えており、これからも積極的な商品開発を進めてまいります。



— お客さまとのつながりを大切にする理由とは



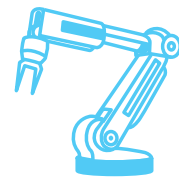
従来は、ハードをお買い上げいただいた後は、次の買い換え時期まで待つという売り切りのビジネスになっていました。せっかく関わりのできたお客さまと疎遠になってしまうのはもったいないことから、**お客さまとのつながりを大切にするビジネスを構築していかなければなりません。**

お買い上げいただいた後の継続的な保守運用や修理対応でお客さまとの接点を強め、現場から得た情報をもとにしたさまざまなご提案でお客さまの課題を解決し続け、お客さまに当社の機器を知っていただくことができれば、事業の拡大やブランド力の向上につながると考えています。



— 投資について

商品の開発、生産、販売それぞれにおいて、ソリューション型ビジネスに対応した情報システム基盤の整備など、ITインフラの構築を進めていきます。さらに生産設備の強化やロボットの活用など、生産性の向上を図っていきます。



また、2020年12月完成予定である兵庫県宝塚市の新拠点「ナレッジスクエア」では、開発者だけでなく、ユーザーさまやお取引先さま、協力会社さまなどさまざまな人々が集い、知恵を出し合う場をつくりあげます。**多様な人とのつながりを生み出し、新しい価値を共に創り出す「共創の場」として生まれ変わります。**

さらに、積極的な人材登用、時代の変化に対応できる人材育成プログラムなど、人への投資にも注力します。



ナレッジスクエア (完成イメージ)

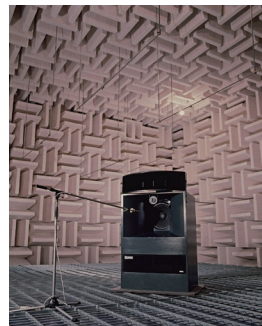
もしも音がなかったら…？

今、株主の皆さまにはどんな音が聞こえていますか？どれだけ静かな場所でも、耳をすませば空調や外を走る車の音などが聞こえていて、まったくの無音になることは滅多にありません。では、人は、まったくの無音状態になるとどう感じるのでしょうか。

もしかしたら、「静かだから気分が落ち着くのでは？」と思う方がいらっしゃるかもしれませんね。実は、人間にとっての無音とはとてもストレスを感じる状態なのです。それは、人は知らず知らずのうちに、音を聞くことで物の方向や距離、自分の位置など周囲の状況を脳で素早く判断して過ごしているからです。

ちなみに、『音をお売りする』ことで社会に貢献し、私たちも発展してゆく」ことを経営方針として掲げる当社では、開発部門がある宝塚事業場に無音に近い状態を作り出す「無響室」を設けています。

無響室は、外部の音は遮断され、内部は音の反射がほとんどないように設計されていて、音響機器の実験や測定などに使用されています。



無響室（宝塚事業場）



編集後記

今回の株主だよりでは、トップインタビューを通じて、当社がこれから進もうとしている方向を株主の皆さまへお届けしました。また、新コーナー「ご存知でしたか？」では、株主の皆さまがちょっと誰かに話したくなるような身近な音・映像に関する情報をご提供できればと思っています。

今後、株主だよりが株主の皆さまにとってさらに親しみやすい存在になることができれば幸いです。

連結財務諸表の概要

第1四半期連結貸借対照表

単位：百万円

科 目	前期末 2018年3月31日 現在	当第1四半期 2018年6月30日 現在
資産の部		
流動資産	40,875	38,730
固定資産	16,949	17,453
資産合計	57,824	56,184
負債の部		
流動負債	7,663	6,537
固定負債	4,374	4,626
負債合計	12,037	11,164
純資産の部		
株主資本	39,077	38,598
その他の包括利益累計額	4,425	4,221
非支配株主持分	2,283	2,199
純資産合計	45,786	45,019
負債純資産合計	57,824	56,184

第1四半期連結損益計算書

単位：百万円

科 目	前第1四半期 2017年4月1日～ 2017年6月30日	当第1四半期 2018年4月1日～ 2018年6月30日
売上高	8,135	8,788
売上原価	4,574	4,863
売上総利益	3,561	3,924
販売費及び一般管理費	3,807	3,884
営業利益又は営業損失（△）	△246	40
営業外収益	61	117
営業外費用	32	10
経常利益又は経常損失（△）	△217	146
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△217	146
法人税等	38	83
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△256	63
非支配株主に帰属する四半期純利益	33	101
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△290	△38

第1四半期連結包括利益計算書

単位：百万円

科 目	前第1四半期 2017年4月1日～ 2017年6月30日	当第1四半期 2018年4月1日～ 2018年6月30日
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△256	63
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40	265
繰延ヘッジ損益	△0	—
為替換算調整勘定	△242	△573
退職給付に係る調整額	△19	△4
その他の包括利益合計	△220	△312
四半期包括利益（内訳）	△477	△249
親会社株主に係る四半期包括利益	△486	△242
非支配株主に係る四半期包括利益	9	△6

（注）記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

Smiles for the Public

— 人々が笑顔になれる社会をつくる —



TOA 株式会社

〒650-0046 神戸市中央区港島中町七丁目2番1号
コンプライアンス部 Tel: (078) 303-5620 (代)
<http://www.toa.co.jp/> (日本語サイト)
<http://www.toa.jp/> (Globalサイト)



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に
基づき、より多くの人に見やすく読みまちが
えにくいデザインの文字を採用しています。